第7章　剰余価値率

〔的場　超訳「資本論」p.140〕

第7章では、不変資本と可変資本の概念を使って、労働者がいかに搾取されているかが議論される。商品の価値が記号で表現されると

Ｃ＋Ｖ＋Ⅿ

（不変資本＋可変資本＋剰余価値）

実際にⅯをつくるのは、Ｖを支出する労働者である。労働者に支払う賃金であるＶの部分と、資本家が獲得する剰余価値の部分Ⅿを比較すれば、新たに形成された価値の比率がわかる。これを剰余価値率という。これは、どれくらい新しい価値を算出したか、どれだけ絞り取ったかである。すなわち、価値増殖の割合を検討しているのである。

マルクスは、労働者の可変資本の部分について、労働者の再生産に係る必要な費用ということで「必要労働」と表現し、それにかかる時間を「必要労働時間」と名づけている。

なお、新しい価値を形成する部分、剰余価値Ｍに支出される時間を「剰余労働時間」と名づけている。

剰余価値率　Ⅿ／Ｖ＝剰余労働／必要労働

マルクスは剰余価値率を100％で試算している

剰余価値率と利潤率とを混同しない。利潤率は、Ｖ＋C　（可変資本に前貸しした不変資本を加えたもの）これは、あくまでも前貸しした資本がどれだけ剰余価値を生むかであり、労働者がどれだけ搾取されているのかとは違う。

第2節～4節は、ほとんど諸説の批判となっている。

「シーニュアの最後の1時間」

紡績の場合、労働時間を12時間とすれば最初の8時間は綿花の原料を補填し、次の1時間36分で労働手段の価値を補填し、次の1時間12分で労働賃金の価値を補填する。だから、残りの1時間で剰余価値を創造する。

労働者の主張する10時間労働を阻止する論理の切り札－シーニア（オックスフォード大学）が選ばれた。実際は、労働時間が減れば、原料の消費も機械の摩耗もへる。前貸しされた資本の損失も減ることを混乱している。

〔浜林「資本論」を読む、p.268〕

1. 労働力の搾取度

剰余価値率　ⅿ／v

（剰余価値／賃金）

労働者がどれだけタダ働きさせられ

ているか

利潤率　ⅿ／c＋v

（剰余価値／資本の総額）

投資した資本に対するもうけがいく

らか

p.366　最初はＣ＝ｃ＋ｖであり、たとえば、前貸し資本500ポンド＝410ポンド（ｃ）＋90ポンド（ｖ）である。生産過程の終わりには商品が現れてくるが、その価値は（ｃ＋Ｖ）＋ｍであって、このｍは剰余価値である。たとえば、（410）ポンド（ｃ）＋90ポンド＋ｍである。

（剰余価値率と利潤率）

ｐ.370　不変資本をゼロに等しいとすることは、一見すると奇異に感じられる。

ｐ.370　前貸し資本に対する割合も、大きな経済的意義をもっている。

それが利潤率である。

ｐ.370　ある化学的過程のために蒸留器その他の容器が必要であるという事情は、分析の歳に蒸留器そのものを抽象する事をさまたげない。

ｐ.371　われわれは、さしあたり不変資本部分はゼロに等しいとする。

ｐ.372　上述の例では、90／90＝100％　　である。可変資本の価値増殖のこの割合または剰余価値の比率的大きさを、私は剰余価値率と名づける。

剰余価値率の定義である。

（必要労働時間）

12時間働く。うち、6時間は自分自身

の労働力の価値をつくりだすのに必要

な労働時間。

　必要労働時間と名づけた。

（剰余労働時間）

p.375　剰余価値率は、資本による労働力の、または資本家による労働者の搾取度の正確な表現である。

必要労働時間を超えてタダ働きする

時間を剰余労働時間と名づける。

注　搾取度の正確な表現と搾取の絶対

的な大きさの表現ではない。

p.376　剰余価値率（一般に利潤率と混同されている）は、…。

（剰余価値率の計算）

不変資本部分をゼロにして、可変

資本に対する剰余価値の割合、すな

わちⅿ／vを計算するとしている、

p.377　32番手の糸を紡いで、紡績一錘あたり毎週一重量ポンドの糸を生産する紡績工場の例をとろう。

p.378　残るのは、132＝52（ｖ）＋80（ｍ）ポンドという毎週の価値生産物である。

賃金が52ポンド。剰余価値は80ポ

ンドだから剰余価値率は80／52＝153・

11／13％

時間で割ると、10時間とすれば必要

労働が3時間、剰余労働が6時間とい

うことになる。

1. 生産物の比例的諸部分での生産物価値の表現

今度は生産物の価値部分で表す計算

をしている。

p.380　注　糸価値30シリング＝24シリング（c）＋｛3シリング（V）＋3シリング（ⅿ）}

不変資本部分24シリングは綿花20

シリング＋紡錘4シリング

ｖが3シリング

ｍが3シリング

・綿花20シリングは目方で20ポン

ドになる。

・綿花20ポンドを貨幣額の比率で分

ける。

・綿花20ポンドを労働時間で配分し、

表す。

これは、次のシーニアの「最後の1時

間」の話につながる。

1. シーニアの「最後の1時間」

シーニアは最初の8時間で綿花、次

の1時間36分でスピンドル、その次の

1時間12分で賃金、次の1時間12分

でもうけと演説した。

10時間法になったら、最後の1時間

がなくなり、もうけがなくなると言っ

た。

　　　　　　労働時間を1時間短縮すれば、原料

や機械の減る分も少なくなり、剰余価

値は少し下がるが、剰余価値はなくな

るわけではない。

1. 剰余生産物

p.395　生産物のうち剰余価値を表わしている部分(第2節の例では、20重量ポンドの糸の1／10すなわち、2重量ポンドの糸）

をわれわれは剰余価値物と名づける。

剰余価値の生産が資本主義生産の目

的である。富は生産物の絶対量ではな

く、剰余生産物の相対的な大きさであ

る。資本家がもうけを増やそうとすれ

ば、剰余生産物の割合を増やさなけれ

ばならない。

　　　　　　必要労働と剰余労働の合計、つまり1

日の労働時間を「労働時間の絶対的大

きさ」、すなわち労働日と呼ぶ。

了